

育児休業に関する体験記 7

30代 33日間取得

①家事・育児について

1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか

出産後の母体回復を最優先にしてほしい旨を妻に伝え、授乳以外の家事育児を夫が担当した。

2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について

出勤時間以外、フルで参加している。

(妻 記載欄)休業取得者の家事・育児の参画の状況について

産後は体調が回復するまで時間がかかったので、夫が家事育児を担ってくれて助かった。

②仕事について

1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか

仕掛業務と発生予定の業務に分けて引継目録を作成した。業務の期限やフローについて整理し、部内で共有した。

2. 評価・反省

若干の引継ぎ漏れはあったが、現場にフォローをしてもらえた。概ね問題はなかった。

③自由記述

妻の退院に併せて1ヶ月の出生児育休を取得した後、期間を空けて子が生後3ヶ月の頃に再度1ヶ月の育休を取得しました。退院直後に取得した理由としては、周囲の女性から「産後は体力が著しく低下するので、その時期に取った方が良い」とアドバイスを受けたためです。結果として退院直後に取得したのは、正解だったと感じています。

新生児育児は、こまめな授乳やおむつ替え、夜間対応等、子を生かすために相当な気力と体力を要します。健康な男性であっても体力的に辛い場面がありました。産後のダメージを負った女性だけで行うのは、相当に大変であると感じました。3ヶ月頃になるとおもちゃ遊びや絵本読み聞かせ等、育児の内容が子を育むことにシフトしていきました。間近で成長を観察でき、新生児期とは異なる育休期間を過ごすことができました。

育児内容は、育休取得のタイミングによっては大きく変わります。これから取得予定の方は、パートナーの負担を最大限軽減できるよう取得時期を意識してみるのはいかがでしょうか。